

<仙台国税局長賞>

私たちの世代と税

福島市立松陵中学校

3年 あんど安藤 わかば若葉

私は以前、税金というものに関心が無かった。小学生の時は、税金というと『消費税』しか知らなかったくらい知識が少なかった。

そんな私が税について初めて深く考えたのは、中学3年生になってからである。社会の公民で『少子高齢社会』について勉強した時の事だった。今まさに日本は少子高齢社会に突入している。そのため、税金というものが今の日本や自分自身に大きく関わっているのでは、と考えるようになったのだ。

高齢者が増加すれば、年金や医療、介護などに必要な社会保障費も、大幅に増える。しかし、今の日本では出生率が低下しているため、高齢者を支える人口は減少している。つまり、社会保障費が不足しているということだ。私は、つい最近までは、社会保障のことは気にしていなかった。自分はまだ中学生だし、病気になる事も少なかったため、医療や介護とは、それほど関わらないと思っていたからだ。しかし、今年の4月に、私の祖父が体調を崩し、救急車で病院に運ばれた。命に別状は無かったのだが、念のため数日間入院することになった。私の家族が入院したことは無かったため、入院費も心配だった。母にその事を訪ねると、国からの保障があるからそこまで心配しなくて良い、と教えてくれた。その時から私は、祖父と今楽しく生活できているのは、税金のおかげなのかもしれない、と考えるようになった。少し大げさな気もするが、何も知らなかったあの時の私は、社会保障の存在を知り、本当に安心できたのだ。

そして最近、公民で『少子高齢社会』を学習した。その時、真っ先に頭に思い浮かんだのは、祖父が入院したあの日の事、そして祖父の笑顔だった。なぜなら、社会保障というには、医療だけではない。年金なども含まれるからである。高齢者が生活していく上で、年金は大切だ。もちろん、私の祖父母も年金を受給している。そして、現在の日本では、これからさらに年金の給付は増えると考えられている。しかし、それとは逆に少子化は進み、高齢者を支えるための国民一人あたりの経済的負担も、増加する一方だといわれている。これを知った私は、このままでは今の高齢者は安心して生活できなくなる、そして私が高齢者になった時、年金はもらえなくなるのではないかと考えた。

そうならないためにどうしたら良いのか、正直、すぐには分からなかった。兆という単位のお金は、募金などでは到底集まらない金額だし、子供の人口を増やしたいと言っても、そう簡単にできることではないからだ。

私は政治家ではないため、国を直接動かすことはできない。しかし、その政治や経済を支えることなら、少しはできるだろう。そのために私達の世代は、今はしっかり勉強し、自分の目標の仕事に就き、日々全力を尽くして働くことが大切なのではないかと考える。